

グローバリスト・システムにどう打ち勝つか

トランプ一人で我々は救えないが、並列社会なら可能

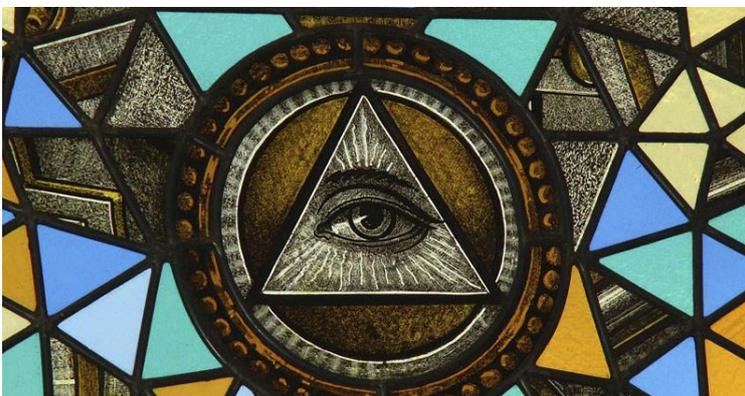
【訳者注】我々自身の行動をどう計画するかを、真剣に考えている人がここにもいる。トランプ一人ではどうすることもできない。団結して具体的に、敵にどう立ち向かうかを詳しく提案するという点で、サイト [State of the Nation](http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161130.pdf) に似ている（孫子の兵法を持ち出すところも）。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161130.pdf> 決戦は避けられないということが、共通して前提になっている。グローバリストのシンクタンク“Rand 研究所”や、ペンタゴンの内情が詳しく語られ、彼らがアメリカの自国民と戦う、冷徹な戦術を用意していることが、これではっきりわかる。

最後の節で、戦況が決する時期が今から 10 年後で、それを決めるのは自分たちだと言っている。これを信ずるか、彼の提案する具体的な行動に賛成するか否かはともかく、明らかに敵対行動を考えているグローバリストと、どう武器なしに、頭脳で戦うかをアメリカ人はみな真剣に考えよと、論者は言っているように見える。

なお、これは有名なアレックス・ジョーンズのサイトに出ていた論文である。

Brandon Smith

Infowars.com January 28, 2017



私の最近の 2 つの論文、“[How Globalists Predict Your Behavior](#)” “[How to Predict the Behavior of Globalists](#)”

において、私は、ほとんどの人々が知らないある概念の背後にある根本原則を説明した。できれば先に進む前に、このシリーズの先行論文を読まれ

ることを強くお勧めする。

<http://www.alt-market.com/articles/3107-how-globalists-predict-your-behavior>

<http://alt-market.com/articles/3112-how-to-predict-the-behavior-of-globalists>

私が述べた概要は本質的に言って、「第4世代戦争」についての初心者コースであった。その方法論は要約するのが難しいが、私はここに、その中心的な趣旨と考えられるものを挙げておく。

第4世代戦争は、「孫子の兵法」に言われている第一の教訓に基づくものである。これは古典的な戦術の本で、最も優れた戦術家は、戦わないことによって、あるいは少なくとも公然と直接的に戦わないことによって、戦争に勝つと論じている。すなわち彼らは、敵に対し、立ち向かうことは無駄だから降伏が望ましい、と納得させることによって勝つのであり、あるいは彼らは、敵を仲間割れさせて、または心理的に破壊させて勝つのである。孫子は、この方法が、実際に戦場で直接戦うよりも優れていると思ったのだった。

これは奇怪なやり方に思えるかもしれないが、今、グローバリストにとって、この第4世代戦争が戦う方法になっていることは、ますます明らかだと思われる。グローバリストの作ったこのシステム、何十年も勢力を堅持しているこのシステムを倒すことは、第4世代戦争を理解しない限り不可能であろう。

第4世代攻撃の、何度も試験済みの古典的な例は、敵対する人民の間に内戦を起こさせるやり方で、ほとんどの場合、その紛争の両側の主導権を握っている。もう一つの方法は、うまく敵をつくり出すことで、それは外からのもっともらしい脅威でも、全くでっちあげたものでもよいが、その“敵”を相手の人民に差し向けて、結局は、グローバリスト陰謀団を利用する特定の旗印のもとに団結させる。4世代戦争は、なんといっても忍耐を要求する。

実際、私は、4世代戦争を、忍耐の武器化と呼んでもいいと思う。4世代戦の攻撃は、数日とか、数か月とかでなく、数年に及んで行われる。それに比較できる経験を見出すのは難しいが、私はこれを、軍隊のスナイパー（狙撃兵）が、どのように活動するかを学ぼうと決意した人の忍耐に例えてもいいと思う。あなたは何年もかけて長距離射撃をマスターし、侵入ポイントから何時間もかけて匍匐前進で観察ポイントにまで達し、それから地上の穴に坐って（もしそんな穴が見つかるほど運が良ければ）、たった一発の射撃——おそらく戦闘中にあなたが行う唯一の重要な射撃——を、致命的な標的に命中させるために、何日間も待ち続け、しかも撃ち損ずることは許されないということが想像できるだろうか？

計画にかかる努力と時間、高度の正確さ、そして狙撃に要する先見の明——これは、4世代戦の心理作戦ミッションに要する、努力と沈着に大いに通ずるところがある。この種の戦争は、いわゆる「シンクタンク」によって支配され、誰でもその戦術を覗こうとする者は、一つの特定のシンクタンクの歴史に直面する——「ランド研究所 (Rand Corporation)」、それに彼らの心理作戦の第一の手段、“合理的な選択”理論である。

いつでも誰かが、「グローバリストの陰謀なんて考えられない、なぜなら、そのような計画はあまりにも手が込みすぎて、現実にはそれを実行するにはあまりにも労力がかかるからだ」と言っているのを聞くと、私は笑わざるをえない。そしてランド研究所を持ち出すことになる。このシンクタンクは、フォード財団のようなグローバリストの財団から、ほとんど無限の資金をもらい、次世代の武器を開発するだけでなく、4世代心理戦争計画を押し進めているのである。ランドの影響は、政界から社会科学、軍事応用科学、そしてハリウッドまで、あらゆる所に及んでいる。私はこれまで何年間も、彼らの努力を研究してきたので、この人々は確かに頭が良いとすることができる。彼らのある者は、彼らの戦争ゲームのアイデアほど、一般大衆を苦しめる、大きな結果をもたらすものはないことを、知らないかもしれない。そしてある者たちは確かに、道徳的に腐敗している。しかしそれでも彼らは頭がよく、過小評価はできない。

もう一つ、研究者たちに注目してもらいたい点は、Michael Aquino と Paul Vallely がペンタゴンのために書いた「心理作戦から心の戦争へ：勝利の心理学」という文書である。

<https://www.wanttoknow.info/mk/mindwar-michael-aquino.pdf> この中で彼らは、第4世代戦争の方法は、外国の敵に限られたものではないことを明らかにしている。実は、その方法は、政府が自分自身の人民に対して使うように勧められている。またこの方法論の要点は、目標の人民が自分から屈服し、武力は必要がないように彼らを操作することである。アキノとバレリーは、これは、反乱と対反乱の流血を避けるという意味で、関係するあらゆる者にとって、よりよい結果をもたらすと述べている。

私には彼らが、流血や巻き添え被害を気にしているとは思えないが、しかし彼らは、全体主義的権力集中の過程で、面倒なことになるべく起こらないように、とは思っているだろう。エリートたちは、大衆に対して、グローバル化は、“最大多数の最大善”のために受け入れるべきものと説得することによって、暴政を滑らかにしようと考えている。しかし、彼らがこの大規模な社会変化と集団的無意識を実現するには、危機と大災害を必要とする。彼らは自分たちを創造者と見ているが、彼らにとって創造とは破壊のことである。言い換えると、旧世界を破壊し、残ったビルディングのブロックを、何か新しいものを作るために使うことを考えている。

もし我々が、彼らの、灰の中からグローバルな中央集権が立ち上がるという解決を信じなければ、彼らはその問題にも応えられないと考えている。私の論文「エリートがアメリカに戦争を仕掛けるとき、これが彼らのやり方だ」を読んでいただきたい。<http://www.alt-market.com/articles/2588-when-the-elites-wage-war-on-america-this-is-how-they-will-do-it> 特に、外交問題評議会の Max Boot に関するセクションをお読み願いたい。ブート

は CFR の常任の“暴動専門家”であり、私は、戦争において理論は現実であるかのように、学術的なモデルを現実世界の紛争に応用する彼の能力を疑うが、それは、これらのエリートたちの精神構造をうかがい知るには十分である。

ブートの仕事は、イギリスがマレーシアの共産党ゲリラに対して使った方法に基づいて、暴徒たちを、戦闘的でない民衆から隔離するというモデルに焦点を当てている。実は、彼は、マレーシアの市民を集めて強制収容所に当たる大都市に移送する、イギリスのやり方に有頂天になっているようだ。このやり方は、暴徒が仲間を募ることを困難にし、彼らが市民の間に隠れることもできなくなる。それはまた、食糧生産を高度に管理された地域に集中させることになり、イギリス人が民衆を操るのを容易にした。このような隔離によって、政府官憲が、暴動の脅威を地方の民に“教育”し、彼らの支持を取り付けることが容易くなった。

そこで問題は、もしこの一連の戦術が、自由を擁護する人たち、特にアメリカ内部で、自由な人々に矛先を向けるようになったとき、そして近い将来、事態がさらに悪化する可能性があるとき、我々はどうやって反撃するかである。

第一に、私は、自由運動の内部に、ある困った傾向が現れているのを指摘しなければならない。それは活動家たちが、解決について論ずるよりも、問題について論ずることに、遥かに大きな興味を示すことである。何年かの間、私は、特定の解決や戦略を論ずる論文への読者の興味が、一貫して減少していることに気づいている。私自身の論文だけでなく、多くの他のアナリストについても同じである。やってくる不気味な危機の現実について書く方が、この出来事の衝撃を少なくするために個人が、何ができるかについて書くより、遥かに盛んになっている。私はこの論文が、私の他の論文の読者数の、半分しか得られなかったとしても驚かないだろう。

第 4 世代戦争での反撃の第一歩は、脱出するたやすい方法はないということを確認することである。腐敗したシステムを内部から変える方法はない。政界や政府を利用して、我々の有利なように仕向ける方法はない。活動家もっているあらゆる希望にもかかわらず、ランプが、あなたやアメリカを救うことはない。共和党に支配された下院や上院が、我々を救うことはない。たとえ彼らがそう望んでも、彼らができることは何もない。

私はこのことについて、次の論文でもっと詳しく論ずることにするが、Fed (連邦準備銀行) を閉鎖するというような行動だけでは、中途半端であって、危機を減らすよりも、むしろ、短期間に危機を悪化させるであろう。Debt jubilee (負債帳消し運動、もう一つのよく言われるニセ解決) は、グローバル・マーケットでのあなたの世界準備通貨の価値が、その過程で破壊されたままで、あなたの国債がもはや望みがないときには、無意味である。企業に呼

び掛けて、あちこちに数千の製造業雇用をつくり出すことは、9,500万の人々が、公的に失業者と考えられる数百万人に加えて、もはやアメリカの労働力の中に入っていないことを考えれば、バケツに垂らした一滴の水である。現在進行中の経済的崩壊が、そのコースを突っ走るのを止めることはできない。我々は結局、薬を飲むように要求されるだろう。そしてこれは、考えているより早く起こるだろう。

しかしここに、ダメージを軽くし、体制に対して反撃するために、できることがある——**システムからの離脱**である。

人々は常に、壮大な劇映画のような、グローバリストとの戦いの解決を求めているが、現実の解決はそんなロマンチックなものではない。“New World Order”を打ち負かすには、個人々々が、自分たちの日々の生活で、より小さい行動を取ることが要求される。自給自足を強化すること、自分の必要物を自分でまかなう能力、自分と家族を防衛する能力、grid（電気・ガス・水道の元）への依存から離れること、子供の家庭での教育、ウェブにつながった科学技術や“物のインターネット”に対する健全な懐疑、等々。

これは、森の中に小屋を建てて住み、マニフェストを起草するというような意味ではない。しかしあなたは、多少の現代的な便利さや快適さは犠牲にして、最初は違和感のある生活を我慢しなければならないだろう。簡単に言うならば、あなたは、たいていのことを自分でやり、“物”を減らし、主流メディアの刺激を少なくすることを学ばねばならないだろう。

こうした努力をし始めたが、それでも“通常”と言える生活をしている人々を、私はたくさん知っている。確実に言えることは、もしあなたがシステムに頼っているなら、システムと戦うことは絶対にできないことである。

侵略的科学技術からの離脱——あなたの生活から活動する監視を取り除きなさい。どこへ行っても携帯電話を持ち歩くことをやめるか、少なくとも、必要でない限り電源を切るべきである。コンピューター・カメラも同じである。使わないときはマイクロフォンを切り、内蔵ウェブ接続アプリを買わないことである。小さなグリッド・プログラムに参加しないようにすること。GPS モジュールをあなたの車から除去すること。たえずフェイスブックに写真を載せ、あなたの生活全体を、社会メディアでシェアするのをやめること。敵が利用できる情報をあまり与えないことである。

本当の共同社会を作ること——インターネットのような冷たい媒体を通じて、国の反対側にいる人々との空虚な友情を結ぶのをやめて、あなた自身の近所か町にいる人々との関係を構築すべきである。他のどんなことよりエリートたちが恐れることは、人々が、彼らの

影響の及ばない外側にグループを組織することである。より多くの、大小の共同体グループがあるほど、その人たちを監視するのに、より多くの努力、カネ、人間が必要になる。地方的なグループが、お互いに知り合いで、長い間一つの場所で生活してきた人々で構成されているならば、そこへ侵入することは難しく、自由な選択をほとんど不可能にする。

代替通信手段を設けよ——あなたのグループまたは共同体は、少なくとも一人のハム・ラジオ（アマ無線）のエキスパートを確保すべきである。暴政に対する抵抗は、独立した通信手段を要求する。この能力がないと、危機の場合に、情報にアクセスすることができなくなる。ハム・ラジオは、全国に情報を拡散するのに用いることができ、世界の他の部分にでも通信することができる。完全に通信が不能な場合でも、ハムは、デジタル・メールやファイルを送ることができ、これらのファイルは暗号文にすることもできる。建国の父たちは真夜中に馬を走らせた。我々はハム・ラジオをもっている。

資源管理に参加するのをやめよ——より大きな崩壊が起こった場合には、（食糧）資源管理が、ゲームの名前になるだろう。エリートが民衆にのど輪をかけるためには、彼らは、暴徒（自由を愛する人々）を通常の（隷属させられた）市民から引き離し、できるだけ多くの資源を没収して、“忠実な者たち”に供給し、望ましくない者を飢えさせねばならない。

私は、反乱が成功するためには、地方の共同体が彼らの資源を完全にコントロールし、政府がこうした資源を分けるように命ずるのを、拒否しなければならないと思う。究極的には、政府がマックス・ブートの“好意的”強制収容所の方法によって、民衆にかけたのど輪をはずさせるためには、この戦術は逆にしなければならないだろう。資源を、こうした場所から完全に断つ必要があるだろう。これは、政府が必要物の名で持っているテコを外すことになり、誰一人、この種のグリーン・ゾーンに再び留まろうとする気は、持たなくなるだろう。

自警団裁判——私は、このようなものができるのを黙認するのも、批判するのもない。ただそれは不可避だと指摘しているだけである。（以下略）

我々の時間の窓は小さい——覚えておくべきことは、新世紀世代たちが、この国で支配的な文化的勢力になるのは、まだ 10 年先だということ、そしてこれら **precious snowflakes**（＝新世紀世代に多いトランプ嫌い）たちは別人種のようなということである。彼らの大多数は集団主義を求めている、彼らは大学や公立学校で、異なる意見を弾圧するように一生懸命学んでいる。大きな危険は、保守派の運動の内部の人々も、あと 10 年か 15 年で年を取りすぎて、効果的に反撃することができなくなるかもしれないことで、我々が経済的な災害に取り組んでいる一方で、新世紀世代は、グローバリストの解決の一部として称揚される文化マルクシズムに、浸っているかもしれない。

最後に我々がどうなるにせよ、後戻りできない地点（それまでに多くの危機と闘争があるだろう）に到達するまでに、残された時間は10年だと私は信じている。その後は、グローバルリストたちが監獄にいる、または死んでいるか、それとも、我々が大規模な経済的リセットによって、新世界秩序を創っているかの、どちらかである。選択は我々次第である——たとえそれを、受け入れたがらない人たちがいたとしても。